You, Unlimited

Ryukoku University

REC News Letter

Ryukoku Extension Center ニューズレター

No.215 発行日：2026年3月26日

ご報告 「2025年度龍谷チャレンジ報告会」を開催しました！！

学生の正課以外の自主活動、社会や地域と連携した社会連携活動、起業準備や試行的な販売活動、脱炭素や再エネ利活用、地域経済循環・地域活性化の実現を目指す活動などを支援する制度「龍谷チャレンジ」の2025年度採択団体による活動報告会を3月3日（火）に開催いたしました。

今年度は、自主活動部門8団体、社会連携・社会貢献部門12団体、スタートアップ部門6団体、脱炭素・サステナビリティ部門3団体が採択され、年間または半期の積極的な活動をおこない、各々の事業についてポスターセッション形式で報告しました。中でもより優秀な取り組みには、最優秀賞・親和会長賞・学生部長賞・RECセンター長賞・サステナビリティ推進室長賞がそれぞれ与えられ、活動に対する客観的な評価を得ることができました。

ポスターセッション後は、学生も含めて交流会を行いました。約45分という限られた時間ではありましたが、他部門に採択された学生とも意見交換ができる貴重な機会となりました。

次年度においても、学生が活発に活動できる環境を確保するため、引き続き同事業を展開する予定です。ご興味のある学生がいらっしゃいましたら、ご周知のほどよろしくお願いします。

【2025年度龍谷チャレンジ活動報告会受賞団体】

◆ 最優秀賞（来場者・参加団体による投票により選出）
Team Apple cycle【脱炭素・サステナビリティ部門】
（未利用資源（摘果りんご）を用いた商品開発・情報発信・産地調査・収穫支援・マルシェ出店）

◆ 親和会長賞
ワライタイワ！【スタートアップ部門】
（仏教カードゲーム開発による煩悩への気づき・対話による学び）

◆ 学生部長賞
S-Project【社会連携・社会貢献部門】
（宇治田原の魅力発信と地域貢献、宇治田原のお茶を使った商品の開発）

◆ RECセンター長賞
Zipmotion【スタートアップ部門】
（映像制作・SNS発信支援・感情を引き出す映像表現による価値創出）

◆ サステナビリティ推進室長賞
龍谷大学ニホンミツバチ研究会 Bee わーこ！【自主活動部門】
（ニホンミツバチ養蜂に向けたハーブ園等の環境整備と環境保護啓発を目的としたマルシェ）





ご報告 「さめがい探検マーケット」にて龍谷グッズを販売しました！！



3月20日(金)～22日(日)に滋賀県醒井養鱒場で「さめがい探検マーケット」が開催され、本学からは産官学連携を通じて開発された商品やの農学部が栽培にとりした農産物を中心とした「龍谷グッズ」を販売するブースを出展いたしました。

当日は天候にも恵まれ、多くの方にお越しいただき本学の取り組みについてPRすることができました。マーケットでは来場者はもちろんのこと、出展者同士のコミュニケーションも活発で、何気ない会話の中から、新たな発見がたくさんある有意義な時間となりました。

ご報告 「“いいこと”で“いい会社”になる」講座を開催しました！！



RECでは、政策学研究科と共同で、ソーシャル企業認証制度（S認証）を取得した企業から社会的・経済的価値の両立を学ぶ「“いいこと”で“いい会社”になる」講座を開催しています。3月6日(金)には第4回の講座を実施しました。

第4回では、株式会社毛戸製作所の毛戸 健嗣 氏と的場 信敬 教授に登壇いただきました。社内での取り組みや、株式会社KeDDii ALPHAで行われている、独自のECサイトで、「板材のレーザー切断」をドラッグ&ドロップで自動見積もりし加工出荷する業界初のサービスについて、詳しくお話をお聞きしました。講座は対面とオンラインの併用で実施され、約15名が参加しました。講義後には名刺交換や意見交換が行われ、参加者にとって事業運営のヒントを探る貴重な機会となりました。

ご報告　龍谷ジュニアキャンパス「バドミントン教室」「バトントワリング・チアリーディング教室」を開催しました！！





3月14日(土)、龍谷大学深草キャンパスにて、龍谷ジュニアキャンパス「バドミントン教室」を開催しました。当日は、小学生を中心に約50名の元気な子どもたちが参加しました。

本教室では、バドミントン部の部員たちが講座の企画・運営にあたりました。すでに競技経験のある子どもたちが多い中、現役学生ならではの視点でフットワークやショットの精度など、楽しい中でもより実践的なアドバイスが行われました。子どもたちも真剣な表情で学生の動きを吸収しようと、熱心にコートを駆け回っていました。プログラムの後半には、バドミントン部員によるデモンストレーション試合が披露されました。目の前で繰り広げられるスピード感溢れるラリーや、空気を切り裂くような力強いスマッシュの迫力に、会場からは大きな歓声と拍手が沸き起こりました。

また、午後からは「バトントワリング・チアリーディング体験教室」を開催しました。初めて経験する子どもが多い中、バトン・チアSPIRITSのメンバーによる丁寧な指導のもと、終始にこやかに楽しむ子どもたちの姿が印象的でした。

本教室では2チームに分かれ、お互いの練習成果を披露し合う時間も設けられました。発表の時間には、子どもたちはもちろん、親御さんが笑顔で我が子の奮闘する姿を撮影する様子も見られ、会場は温かい雰囲気に包まれていました。教室終了後には、「お姉ちゃんと写真を撮りたい！」という声が次々と上がり、バトン・チアSPIRITSのメンバーを本当のお姉さんのように慕う子どもたちの姿がとても微笑ましく感じられました。

今後も龍谷ジュニアキャンパスでは、子どもたちが新しいことに挑戦する楽しさを学べるよう、さまざまな講座を企画していきます。ぜひ、本教室をお子様の成長に活用いただけますと幸いです。

ご報告　福祉フォーラム第32回専門セミナー「宗教2世を支援する－これまでとこれからに寄り添う―」を開催しました！！



3月8日(日)、キャンパスプラザ京都にて第32回専門セミナー「宗教2世を支援する－これまでとこれからに寄り添う―」を開催しました。

宗教2世の支援にあたっては、本人が宗教や家庭の状況を語りづらいこと、家族・所属集団との関係を断ち切りにくいこと、虐待・心理的支配・貧困・孤立などの課題が複合化しやすいことなどが課題となっています。こうした状況を踏まえ、学校や児童福祉施設、また成人後のさまざまな支援の場における当事者との向き合い方、当事者の苦しみを背景として留意すべきこと、支援現場間での望ましい連携などを主な論点としました。

当日は、子ども期から親・祖父母等の所属する宗教集団の影響を受けたことにより、人生・生活において困難を抱える当事者の方を登壇者として迎えました。また、登壇者以外の当事者の方々のほか、支援現場の実務者や研究者の方など14名にご参加いただきました。セミナーでは、当事者の立場で宗教2世支援の活動に関わる黒田 官介氏 による「一宗教の信仰等を理由とした児童虐待一支援者としてどう対応するべきか」と題した基調講演が行われ、主に宗教からの離脱に伴う「忌避」（集団での無視、縁切り、口を聞かない、目を合わせない、社会的交友を持たない等の行動）による精神的影響や、教育機会・就労機会の制限、生活満足度の低下、学校等で宗教虐待Q&Aに関する事象がある場合の児童相談所への相談の重要性が語られました。

その後、宗教組織からの離脱の苦悩やその後の社会的孤立に立ち向かってきた当事者の証言を通じて、これまでの体験や思いに耳を傾けました。また、コーディネーターや登壇者、参加者全員によるグループディスカッションも行い、宗教2世や宗教組織から離れた後の支援の必要性のあり方について共有する機会となりました。

お知らせ　「REC News Letter」の発行終了について

本号をもちまして、「REC News Letter」の発行を終了いたします。
2005年11月15日の創刊号からお読みくださった皆様、誠にありがとうございました。
なお、RECは、2026年度以降、イノベーション推進センター・価値創造推進センターに機能を分化し、産官学連携支援・社会貢献活動支援を推進してまいります。今後とも、ご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

REC一同

RYUKOKU UNIVERSITY

Ryukoku University
REC News Letter

No.215

※バックナンバーは下記よりご覧ください。
https://event.rec.seta.ryukoku.ac.jp/news_letter-3/

編集・発行： REC事務部
https://rec.seta.ryukoku.ac.jp/

・ REC滋賀　RECホール（内線7744）
・ REC京都　慧光館 2階（内線1193）

2025年度　ＲＥＣ事業に携わってくださった先生方

※各事業のうち、主なものを１つ抜粋して掲載しています。

◆産官学連携事業・地域連携事業◆

●シーズ発表やイベントに出展、企業への技術指導など

経営学部

眞鍋　邦大	准教授	第37回新春技術講演会　ポスターセッション出展

法学部

牛尾　洋也	教授	環びわ湖大学地域交流フェスタ2025

政策学部

金　紅実	准教授	日台連盟
只友　景士	教授	3L APARTMENT
南島　和久	教授	議会事務局機能強化推進事業（旧軍師ネットワーク事業）

国際学部

デブナール　ミロシュ	准教授	大津市との協定事業（大津市議会議員対象の研修会）

農学部

朝見　祐也	教授	共同研究（ドリームフーズ）
浅水　恵理香	教授	共同研究（日本電気硝子）
淡路　和則	教授	受託事業（しがのふるさと支え合いプロジェクト）
石原　健吾	教授	共同研究（ハウス食品）
岩堀　英晶	教授	研究指導（米澤化学）
上田　由喜子	教授	研究指導（植野洋志＜個人＞）
小野木　章雄	教授	共同研究（一般社団法人 家畜改良事業団）
楠　隆	教授	第4回REC BIZ-NET研究会
神戸　敏成	教授	共同研究（ミヨシ）
柴　卓也	准教授	滋賀県肥料商業組合設立60周年記念講演会　登壇
大門　弘幸	教授	経済産業省「成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech事業）」
滝澤　理仁	准教授	共同研究（公益財団法人 園芸植物育種研究所）
竹歳　一紀	教授	滋賀カレッジ（西日本旅客鉄道株式会社）
田邊　公一	教授	受託研究（オーミケンシ）
玉井　鉄宗	准教授	共同研究（スズキ）
辻村　真衣	助手	研究指導
土岐　精一	教授	共同研究（サントリーグローバルイノベーションセンター）
中川　雅嗣	教授	第3回REC BIZ-NET研究会
西澤　果穂	講師	共同研究（NINZIA＜旧株式会社Sydecas＞）
阪中　幹祥	准教授	第4回REC BIZ-NET研究会
平山　喜彦	准教授	受託研究（クボタ）
古本　強	教授	共同研究（不二電機工業）
別役　重之	教授	共同研究（万田発酵）
桝田　哲哉	教授	共同研究（UHA味覚糖）
松村　篤	准教授	受託研究（滋賀県竜王町）
森泉　美穂子	教授	共同研究（クリオン）
山崎　英恵	教授	共同研究（森永製菓）
山崎　正幸	教授	共同研究（BYAKU）
山本　泰三	教授	第37回新春技術講演会実行委員会

先端理工学部

青井　芳史	教授	研究指導（AC Biode）
浅野　昌弘	講師	「大学見本市2025～イノベーション・ジャパン」出展
池田　聖	教授	第37回新春技術講演会　講演
石崎　俊雄	教授	共同研究（住友電工）
岩澤　哲郎	教授	共同研究（スガイ化学）
岩嶋　浩樹	実験講師	受託事業（コインランドリーを活用した地域活性化事業）
植田　祥明	講師	学術指導（ミラクシアエッジテクノロジー）
内田　欣吾	教授	「大学見本市2025～イノベーション・ジャパン」出展
大塩　裕哉	講師	第37回新春技術講演会実行委員会
大津　広敬	教授	レンタルラボ企業への指導（京都大学）
大柳　満之	教授	共同研究（日本ルツボ）
小川　圭二	教授	経済産業省「成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech事業）」
菊池　隆之助	教授	第37回新春技術講演会　ポスターセッション出展
岸本　圭子	准教授	滋賀県「大学連携研究プロジェクト」
岸本　直之	教授	しが環境ビジネス推進ネットワークキックオフシンポジウム登壇
木村　睦	教授	「SEMICON Japan 2025」出展
小寺　康博	准教授	共同研究（タテホ化学工業）
酒田　信親	准教授	共同研究（三菱電機）
芝 公仁	助教	レンタルラボ企業への指導（本郷工業、ジラフ）
清水　吉大	助教	第2回REC BIZ-NET研究会
関本　達生	実習講師	研究指導
田原　大輔	教授	共同研究（東洋紡エムシー）
富崎　欣也	教授	「2025NEW環境展」出展
中沖　隆彦	教授	広報誌「龍谷」第100号
永瀬　純也	准教授	「大学見本市2025～イノベーション・ジャパン」出展
橋本　宥右	実験助手	瀬田学区ファミリー事業　ものづくり体験イベント
樋口　三郎	准教授	先端理工学部×滋賀ものづくり企業　連携交流事業
桧尾　亮一	実験講師	RECイノベーションカレッジ　公害防止管理者（水質関係）資格試験「受験対策講座」
藤田　和弘	教授	学術指導（髙橋金属）
藤本　雄一郎	准教授	第37回新春技術講演会　ポスターセッション出展
藤森　崇	教授	受託研究（ＡＧＣ・建材ガラス　アジアカンパニー）
ヘルナンデス　ホセ	助教	第2回REC BIZ-NET研究会
松木平　淳太	教授	第37回新春技術講演会　ポスターセッション出展
三木　健	教授	滋賀県「大学連携研究プロジェクト」
水原　詞治	講師	研究指導（園田商事）
宮武　智弘	教授	関西広域連合主催「カーボンニュートラル先進技術フォーラム」登壇
宮戸　祐治	准教授	受託研究（東芝ナノアナリシス）
森　正和	准教授	共同研究（川金コアテック）
山岸　義和	准教授	第37回新春技術講演会　ポスターセッション出展
山中　裕樹	教授	滋賀県「大学連携研究プロジェクト」
山本　伸一	教授	共同研究（追手門学院大学）
吉井　一倫	講師	第37回新春技術講演会　ポスターセッション出展

◆学生ベンチャー育成事業◆

● TREP CAMP（社会起業家育成プログラム）・高校生ビジネスアイデアコンテスト

文学部

玉木　興慈	教授	「内省ワークショップ」講師

政策学部

深尾　昌峰	教授	高校生ビジネスアイデアコンテスト審査員

◆龍谷IP◆

● 龍谷大学だからこその3キャンパス共通オンライン授業の展開

文学部

井上　善幸	教授	第三者評価委員会委員

◆ユヌスソーシャルビジネスリサーチセンター◆

● ユヌスソーシャルビジネスリサーチセンター提供教養基盤科目

文学部

西山　良慶	講師	「仏教SDGs概論」講師

経営学部

眞鍋　邦大	准教授	「仏教SDGs概論」講師

政策学部

阿部　大輔	教授	「仏教SDGs概論」講師
石原　凌河	准教授	「仏教SDGs概論」講師
並木　州太朗	講師	アントレプレナーシップ入門
深尾　昌峰	教授	「仏教SDGs概論」講師・コーディネーター

農学部

玉井　鉄宗	准教授	「仏教SDGs概論」講師

先端理工学部

奥田　哲士	教授	「仏教SDGs概論」講師

短期大学部

中根　真	教授	「仏教SDGs概論」講師

◆福祉フォーラム事業◆

社会学部

猪瀬　優理	教授	福祉フォーラム第32回専門セミナーコーディネート
山田　容	教授	福祉フォーラム第31回専門セミナーコーディネート

◆生涯学習事業◆

●龍谷アカデミックプラザ

文学部

安藤　徹	教授	『源氏物語』からの問いかけ－現代を照らす物語世界－
岡本　健資	教授	インドの仏教説話を読む－生き方のヒントを探す－
玉木　興慈	教授	親鸞聖人の心のうた「正像末和讃」を読む－聖覚の言葉を承けて、親鸞が語ったこと－
寺田　詩麻	准教授	演劇と絵画にみる江戸・明治－歌舞伎はどのように描かれたか－
玉井　鉄宗	准教授	仏教的視点・科学的視点から見た食と農－持続可能な社会を目指して－
吉田　叡禮	教授	つながり合う世界－華厳から読み解く仏教と現代社会－

経済学部

新居　理有	准教授	暮らしの中の経済学－私たちの生活と日本経済・財政のこれからを考える－
西川　芳昭	教授	食と農のシステムを再構築する－事例を通して考える持続可能なライフスタイルの未来－

政策学部

石原　凌河	准教授	もしも京都で大地震が起きたら－私たちにできる"備え"と"手当て"－
大石　尚子	教授	第2回「“いいこと”で“いい会社”になる」講座
中森　孝文	教授	第1回「“いいこと”で“いい会社”になる」講座
並木　州太朗	講師	第3回「“いいこと”で“いい会社”になる」講座
的場　信敬	教授	第4回「“いいこと”で“いい会社”になる」講座

国際学部

久松　英二	教授	生活の中の宗教－仏教とキリスト教の宗教観－

心理学部

内田　利広	教授	親の期待とあきらめ－「自立」の本質を問う－
野呂　靖	教授	はじめて学ぶ大乗経典

農学部

玉井　鉄宗	准教授	仏教的視点・科学的視点から見た食と農－持続可能な社会を目指して－

先端理工学部

木村　睦	教授	デジタルのしくみ－知れば使える現代の常識－

龍谷ミュージアム

石川　知彦	教授	TANGO!　海の京都・山の京都の仏教美術

●びわ湖の日滋賀県提携公開講座

社会学部

脇田　健一	教授	びわ湖と共に！未来を紡ぐエコライフの挑戦

先端理工学部

山中　裕樹	教授	「びわ湖100地点環境DNA調査」結果報告

●ともいき大学

社会学部

井上　辰樹	教授	心と身体の健康づくり～ラジオ体操第3の役割

短期大学部

中村　美智代	准教授	セルフ・ケアどうしてますか

●その他の生涯学習事業

国際学部

泉　文明	教授	京カレッジ京都力養成コース「京都町衆の祭　祇園祭－鉾町へのいざないから祇園祭の根源に迫る－」

●夏休み子ども理科実験・工作教室

先端理工学部

青井　芳史	教授	自分だけのオリジナルけしゴムをつくろう！
今田　琢巳	実験講師	銅板からすてきなアート作品を作ろう！
上原　徹	実習講師	光で、メロディを楽しもう！～電子オルゴールを作ろう～
奥田　哲士	教授	身近なものを利用してキレイな水づくりに挑戦！～キレイな水をつくるには？～
越川　博元	准教授	身近なものを利用してキレイな水づくりに挑戦！～キレイな水をつくるには？～
清水　吉大	助教	手作り風車で発電してみよう！
進藤　康則	実験講師	ペットボトルでLEDランタンを作ろう！
白井　健士郎	実験講師	牛乳パックでハガキをつくろう！～紙すきをしよう～
橋本　宥右	実験助手	スライムをつくろう！／プラズマを見よう！
ヘルナンデス　ホセ	助教	スライムをつくろう！／プラズマを見よう！
水原　詞治	講師	いろんな液体を使って物を分ける実験をしてみよう！
山岸　義和	准教授	ビーズで多面体の宝石を作ろう！

※生涯学習事業は2026年2月28日時点で実施が決定しているものです。

他にも多数の先生方にご協力いただきました。
この場を借りてお礼申しあげます。ありがとうございました。